

令和8年度 第1回 在宅医療・介護従事者研修会に参加・登壇しました

大垣院長が若松区在宅医療・介護従事者研修会にて、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)をテーマに講演を行いました。約30分にわたる講演では、ACPについて改めて振り返り、問い直す貴重な機会となりました。

また、院内でも院長によるACP研修を実施し、患者さんの「こうありたい」という想いを大切にし、その希望を実現するためのACPの重要性について学びました。DNARとADの違いへの理解を深めるとともに、ACPは患者さんだけでなく、ご家族の心残りや後悔の軽減にもつながる大切な取り組みであることを再認識しました。

研修会参加者へのアンケートでは、全員が「大変参考になった」「参考になった」と回答。

「わかりやすい言葉で大変勉強になった」「ACPとDNARは全く異なることが理解できた」「患者様に寄り添い、想いや気持ちをしっかり受け止め、安心していただくことの大切さを再確認できた」といった感想が寄せられました。

また、ACPを「難しい」と感じていた参加者が約65%を占めていましたが、「ACPは特別な話ではなく、日常の会話の中から少しずつ本人の意思を聞いていくことだと知り、今後実践していけそうです」といった前向きな声も聞かれました。ACPの話題の切り出し方や、日頃からの何気ない会話の積み重ねが重要であることへの理解が深まり、ACPに対する心理的なハードルが下がるきっかけとなったことがうかがえました。

在宅医療では、患者さんやご家族との日々の対話を大切にしながら、多職種がワンチームとなって想いをつなぎ、それぞれの専門性を活かして支えていくことが重要です。今回の研修や講演を通して得た学びを今後の実践に活かし、一人ひとりに寄り添った、より良い在宅医療の提供に努めてまいります。

ご参加いただいた皆様、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。今後も地域の医療・介護従事者の皆様とともに学びを深め、連携を大切にしながら、より良い在宅医療の実現に努めてまいります。

